

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 76人

② 数学 76人

③ 理科 76人

5 留意事項

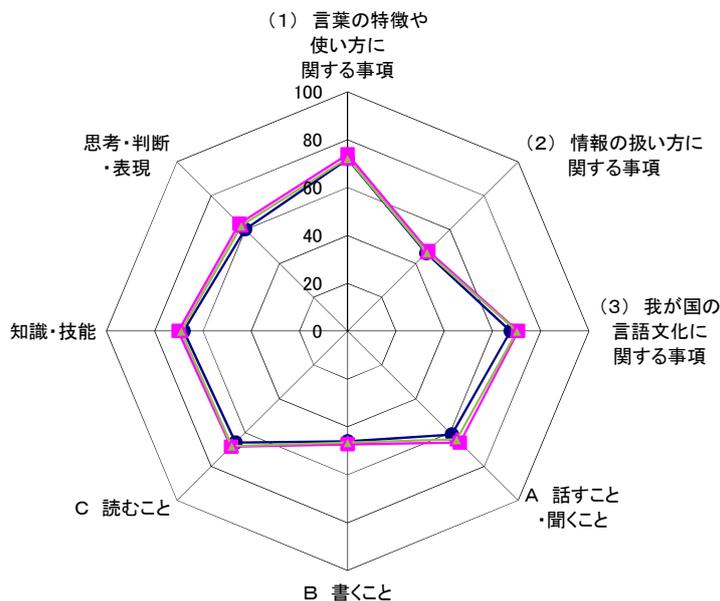
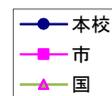
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.9	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	46.1	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	67.5	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	61.0	65.9	63.9
	B 書くこと	46.1	47.3	46.5
	C 読むこと	65.8	68.3	67.9
観点	知識・技能	68.0	70.2	69.0
	思考・判断・表現	60.1	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

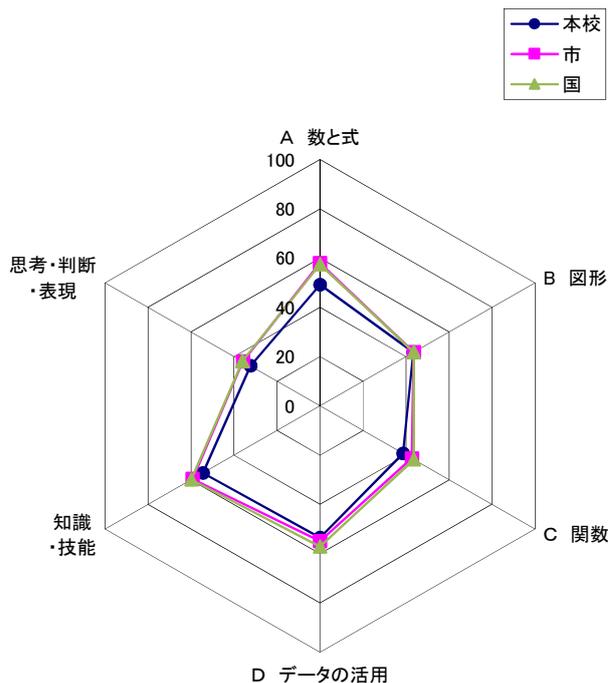
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○表現技法の名称を答える設問では正答率が68.4%であり、全国平均より15.9ポイント上回っている。また、「途方に暮れた」という語彙を問う設問では正答率は86.8%であり、全国平均を2.8ポイント上回っている。語彙力や知識などは定着していると考えられる。 ●漢字の読み書きについての正答率は75.0%と全国平均と比較し、正答率が5.5ポイント下回っている。 ●根拠を明確にして書く設問の正答率は46.1%であり、全国平均を0.4ポイント下回っている。情報を吟味・取捨選択すること、条件に合わせて引用することについて課題が見られる。	・今後も授業冒頭の漢字テストや語彙テストの実施を続けていくことで、学びがより深く、確実なものとなっていくと考える。 ・補助教材としての漢字ドリルなどを有効に使っていくことで漢字力の向上を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	●行書体の特徴の理解を問う設問の正答率は35.5%であり全国平均を3.9ポイント下回っている。行書体と楷書体の見極めに課題が見られた。 ●行書体の読みやすい書き方について理解を問う設問の正答率は86.8%であり、全国平均を3.3ポイント下回った。	・情報を吟味、取捨選択を学ぶ単元において、意見と根拠との関係について学ぶワークシートを工夫し、理解を深め、定着させる。 ・クロームブックや学習アプリ等、学校教育においてもICT機器を用いて、情報の整理の仕方を学習する際、引用の仕方について繰り返し学ばせる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●表現を工夫して話す問題の正答率は46.1%であり、全国平均を5.7ポイント下回っている。具体的なスピーチの状況を想定することに課題が見られる。	・書写の時間において行書体と楷書体の特徴をそれぞれ復習することで理解を深め、定着させる。
A 話すこと・聞くこと	●資料のその効果を書き加える設問の正答率は46.1%であり、全国平均を0.4ポイント下回っている。情報を吟味・取捨選択することについて課題が見られる。 ●無回答率が15.8%であるため、記述に対する抵抗感を減少させていく必要があると考えられる。	・聞き取りテストの継続的な実施、コロナ禍の中でできるスピーチ発表や、グループ学習の仕方を工夫していくことで、「話すこと・聞くこと」の学習機会を充実させる。 ・ICT機器を用いてスピーチの録画をするなど、今後も教師による授業の工夫に努める。
B 書くこと	○描写を基に、心情の変化などを捉える設問については無回答者はいなかった。 ●記述式である設問の無回答率が23.7%であった。描写を基に心情を読み取る力に課題が見られる。	・作文指導の中でも「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていることもあり、特に力を入れて指導している単元である。引き続きこれらを指導していくことで、「書く」能力を育成したい。 ・「自分の考えを明確にして書く」ことに課題が残る結果であったので、ミニレポート提出などで指導を強化していく。
C 読むこと		・物語文では、心情の読み取りや心情の変化など、グループワークを増やすなど、授業形態の工夫していく。授業の中で対話的な発問を繰り返していくことで生徒一人一人の深い読み方を定着させていく。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	49.2	58.0	57.4
	B 図形	43.4	43.6	43.6
	C 関数	38.6	42.7	43.6
	D データの活用	53.5	54.9	57.1
観点	知識・技能	54.5	59.3	59.9
	思考・判断・表現	32.4	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

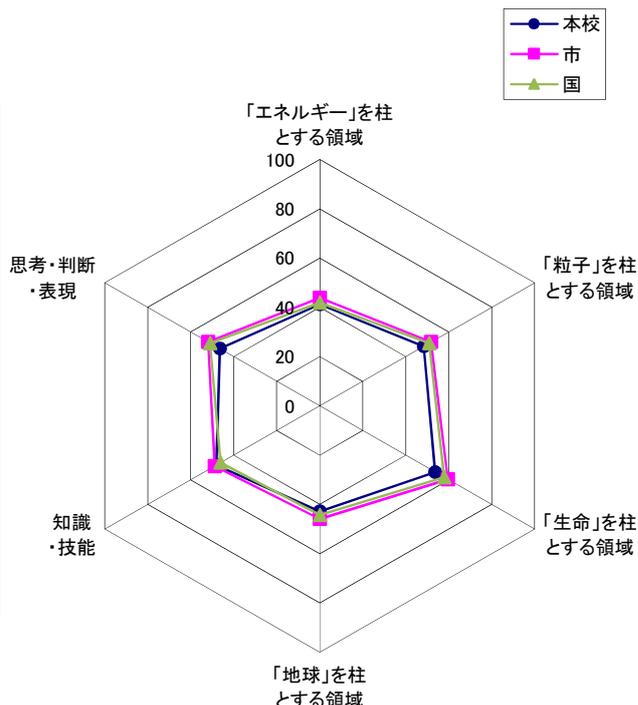
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率は全国平均より8.2ポイント下回っている。</p> <p>○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、市平均に比べて10.5ポイント上回っている。</p> <p>●自然数を素数の積で表す問題では、市平均に比べて20.5ポイント下回っている。</p>	<p>・知識・技能に関する小テストを、今後も継続して繰り返し取り組ませることで、基礎的基本的な計算を正確に解けるようにする。</p> <p>・数学的用語などの意味を繰り返し確認する。</p>
B 図形	<p>平均正答率は全国平均より0.2ポイント下回っている。</p> <p>○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を書く問題では、市平均を9.7ポイント上回っている。</p> <p>●筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、市平均より5.9ポイント下回っている。</p>	<p>・単元において、用語、定義や定理、証明の書き方など、系統性を踏まえながら指導にあたる。</p> <p>・証明問題や図形と関数に関わる発展問題に取り組む機会を増やし、活用する力を身に付けさせる。</p>
C 関数	<p>平均正答率は全国平均より5.0ポイント下回っている。</p> <p>○一次関数の変化の割合の意味を理解しているかを問う問題では、市平均とほぼ同じ正答率となった。</p> <p>●与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題では、市平均より5.2ポイント下回っている。</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、市平均より4.8ポイント下回っている。</p>	<p>・学習の際に、既習事項の復習を繰り返し指導する。</p> <p>・表・式・グラフを関連させながら、それぞれのよさを生徒に気付かせ、適切な表現を判断して、表現する機会を増やす。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は全国平均より3.6ポイント下回っている。</p> <p>○確率を求める問題では、市平均より3.4ポイント上回っている。</p> <p>●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、市平均より3.4ポイント下回っている。</p>	<p>・データの活用の単元において、既習内容の復習に取り組ませる指導を行う。</p> <p>・問題を解くだけでなく、実生活にも活用できる事象を授業で取り入れ、学習したことを活用したり説明したりする機会を増やす。</p>

宇都宮市立上河内中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.2	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	48.4	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	53.7	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	42.8	45.9	44.3
観点	知識・技能	48.1	48.8	46.1
	思考・判断・表現	46.4	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○ 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかを問う問題の正答率は72.4%である。授業の中で、何故このような操作が必要なのかを考える指導を行ってきた成果であると考えられる。</p> <p>● 記述式問題の正答率が28.9%であり、課題が見られる。</p>	<p>・今後も各実験で何故その操作を行う必要があるのかを丁寧に確認する。</p> <p>・実験の計画や予想、考察など自分で文章を書く機会をより多く設定し、記述力を養う指導を行う。</p> <p>・無回答の割合が大きいため、日頃から授業で考え方を記述する時間を確保する必要がある。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○ 液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問う問題は全国の正答率より10.2ポイント高かった。授業の中で身近な現象との関連を紹介することで生徒の興味・関心を引き出すことができたためであると考えられる。</p> <p>● 水素を燃料として使うくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する問題は全国の正答率を12.8ポイント下回った。結果を分析して解釈する力に課題が見られる。</p>	<p>・日常の中で、既習の事象がどのように利用されているか伝え、生徒の興味・関心を高め、自ら科学的事象を調べたり学んだりできるように支援する。</p> <p>・実験や観察の考察をより重点的に指導し、結果を分析して自分の言葉で表現する力を身に付けさせる。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○ 脊椎動物の骨格の共通点から、適当な関節を選択する問題は全国の正答率を2.8ポイント上回った。知識・技能を問う問題の正答率が高く、基本的な内容は定着していると考えられる。</p> <p>● 動物を比較し、観点と基準を明確に判断する問題の正答率は36.8%であり、課題が見られる。</p>	<p>・基礎的な内容や重要単語を繰り返し指導し、更なる定着を図る。</p> <p>・実験の計画や予想、考察など自分で文章を書く機会をより多く設定し、記述力を養う指導を行う。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○ 気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、天気図を選択する問題は全国の正答率を10.5ポイント上回った。</p> <p>● 観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する問題は全国の正答率を10.1ポイント下回った。</p>	<p>・データからどんなことが分かるのか考察する機会をより多く設定する。</p> <p>・根拠と結論の関係を明確にし、なぜそのような結論になるのかを考え記述する活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか。」という質問に関しては、肯定的割合は97.5%で、県の平均を4.2ポイント、全国の平均を5.6ポイント上回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」という質問に関しては、肯定的割合は87.2%で、県の平均を3.0ポイント上回り、全国の平均を5.3ポイント上回っている。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」という質問に関しては肯定的割合は97.6%で、県の平均より3.6ポイント上回り、全国の平均より5.3ポイント上回っている。このことから、規則正しい生活を心がけ健康管理をしっかり行える生徒が多いと考えられる。

○「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」の質問に関しては、肯定的割合は76.9%で、県や全国の平均を大きく上回っている。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピューターは持っているが、約束はない。」と回答した割合は6.4%で、県や全国より少なくなっており、自ら守ろうとしている様子が見られる。1日の使用時間は、県や全国の平均とほぼ同じであった。使用については、保護者との約束を守っている生徒が多く、家族間のコミュニケーションがとれていると考えられる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という質問に関しては、肯定的割合は97.4%で県の平均とほぼ同じであり、全国の平均より1.0ポイント上回っている。本校の生徒は、いじめはよくないことであることや仲間を大切にする意識が高いと考えられる。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に関しては、肯定的割合は50.0%で、県や全国の平均を大きく上回っている。コロナ禍で多くの行事の実施が難しい中でも、地域に根付いた行事に積極的に参加したい生徒が多いと考えられる。

○PC・タブレットなどのICT機器の活用については、県や全国の平均を大きく上回っており、調べ学習や意見発表、振り返りなどで充実した活用ができていますと考えられる。

●「将来の夢や目標を待っていますか。」という質問に関しては、肯定的割合は65.4%で、県や全国の平均を下回っている。「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」の質問に関しても、県や全国の平均を下回っている。進路学習で将来について考えたり、学校行事や学校生活の中で目標の達成感を味わうことができる活動をさせていきたい。

●「新聞を読んでいますか。」「読書は好きですか。」の質問に関しては、「ほとんど読まない」や「読書は好きではない」と回答する生徒が多く見られた。学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこととして、各教科や総合的な学習の時間の授業などで、積極的に図書館を活用したり、読書のよさを啓発したりする場面を増やす。

●「国語の勉強は好きですか。」という質問に関しては、肯定的割合は76.9%で、県の平均より5.3ポイント上回っており、全国の平均より7.6ポイント上回っている。数学と理科に関しては、県・全国平均を下回っている。数学の勉強は大切だと思っている生徒は多くいるが授業の内容がわからない、解き方がわからないとあきらめてしまう生徒が多くいる。理科に関しては、「授業の内容が分からない」、「普段の生活の中で活用できない」、「理科や科学技術に関する職業に就きたい」と思っている生徒が少ない。このことから、数学や理科の授業で発見や興味・関心が高められる教材を取り入れ生活にどのように関係があるのか授業の中での指導を充実させる。

宇都宮市立上河内中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習活動の工夫と展開の実践。	「主体的・対話的で深い学び」を通して、表現力を高めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問に肯定的に答えた生徒の割合は71.8%で市の割合と同じであった。国語の「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題では、全国の平均と比べて0.4ポイント、市の平均と比べると1.6ポイント低い。また、「表現」に関わる問題の校内正答率において、国語の「書く能力」は市の平均を1.6ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎的・基本的内容の定着が不十分である。 ・根拠を基に、記述したり、説明したりすることが苦手である。	・授業の導入時や振り返りで、AIドリルやミニテスト等を行う。 ・授業の中で、記述する機会を増やす。	・小学校からのつまずきを小中一貫教科部会で把握し小中9年間を見通した指導を行う。 ・各教科で確実に定着させる内容ではドリル学習を根気強く行う。また、保護者に啓発し、家庭学習の充実を図る。 ・学習内容と日常生活との関係を明らかにしたり、学習したことを自分でまとめたりする活動を増やす。